

明治時代の旅行記からみた
日光の観光資源に対する西欧の価値意識構造

European Value Consciousness Structure on the Tourism Resources in Nikko
from the Viewpoint of Travel Books

村松 英男¹・石井 大一朗²

MURAMATSU Hideo, ISHI Daiichiro

¹宇都宮大学地域デザイン科学部研究生

²宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

明治時代の旅行記からみた日光の観光資源に対する西欧の価値意識構造

European Value Consciousness Structure on the Tourism Resources in Nikko from the Viewpoint of Travel Books

村松 英男¹・石井 大一郎²

MURAMATSU Hideo, ISHI Daiichiro

本稿では、明治時代の栃木県の日光に関する5人の西欧人（Ernest M. Satow, Isabella L. Bird, Pierre Loti, Mary Crawford Fraser, and Eleanora Mary d'Anethan）の著述に使われている形容詞群を分析し、日光の観光資源に対する西欧人の価値意識構造を解明した。彼らが示した日光は“the City of Rest”であり、そこには「静穏」「簡素な威風」「永遠の救い」「最上の精緻」「壮麗な安息の地」「画趣ある寂寥」「鮮やかな色彩の調和」「秩序のたしなみ」といった要素をもつことが明らかとなった。また、これらの要素の分析から、「際立つコントラスト」の存在が観光資源としての日光を表す価値意識として極めて重要なものであることが示された。

キーワード：観光資源、形容詞、西欧人、価値意識、日光

I はじめに

1. 研究の背景

日本経済の数少ない成長分野の一つとして「観光」に焦点が当てられ始めて久しい。国土交通省主導で民間団体・企業が参画した「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が発足したのは2003年4月1日である。爾来、リーマンショック、東日本大震災など、曲折はあったものの、インバウンドの数は以下の通り推移しており（表1）、引き続き増加することが見込まれている。こうした状況のなか、異なる価値意識をもつ外国人の理解や適切な情報発信がこれまで以上に重要になっている。

表1 インバウンドの数

2003年	524万人（この時点での目標は2010年までに1,000万人）
2013年	1,036万人（初の1,000万人超え）
2015年	1,974万人（この時点での目標は2020年に4,000万人、2030年に6,000万人）
2017年	2,869万人

（日本政府観光局 訪日外客数の推移により作成）

栃木県日光では、観光資源として海外に発信するための英文資料が量・質ともに不十分である。

¹ 宇都宮大学地域デザイン科学部研究生 21muramatsu@gmail.com

² 宇都宮大学地域デザイン科学部准教授 ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp

現存するものでも内容が表層的で海外へのアピール度が極めて低い。さらに、SNSを含め、海外で発行されている日光の紹介文の多くが、それら日本のガイドブックの翻訳にとどまるものが多く、外国人の価値意識を踏まえたものになっていない。

2. 先行研究の検討

CiNii および OPAC により、論文・書籍を検索した結果、過去に外国人の日本の観光資源に着目し、価値意識およびその構造を明らかにした研究は存在しない。あえて示すならば、鎌田道隆「大阪観の近世的展開」、奈良大学 1988〔1〕、および言語学分野における、IHASHI Kazuki "On the Core Function of English Sensory Adjectives"、大阪大学 2017〔2〕である。また、比較文化・比較文学の分野では平川祐弘「和魂洋才の系譜」、東京大学 1974〔3〕、渡辺京二「逝きし世の面影」、2005〔4〕、そして建築史分野では、井上章一「つくられた桂離宮神話」、1986〔5〕、その他、日光を扱ったものに井戸桂子「日光を訪れた二人のイギリス女性」、駒沢女子大 2012〔6〕などがある。これらは、いずれも平川のいう“外からの自己把握”、“第三者の目を通した日本文化の位置”を歴史学、言語学、文学、建築史学などの分野から確認する研究である。

本稿では先述の各専門分野の研究の学際的なものとして、西欧人が明治時代の日光をどのようにみてどう評価したか、そして、その価値意識を構造的に探ってみたい。

「大阪観の近世的展開」の中で鎌田は「形骸化された近代的価値観」（進歩、発展、早さ、便利、合理的等々が中心の概念）を無批判に受け入れてしまっている日常を見直すため、江戸時代の人々が都市大阪をどのように見ていたかを研究する手始めとして、外国人の記録を調査した。そこでは、近代人なら誰でも賛意を表す「価値意識」を「近代的価値観」と定義している。本稿においても“誰でも賛意を表す”という観点を重視している。つまり本稿で取り上げる「価値意識」とは、観光資源を評価するにあたって、「自然を満喫できる」「豊かさを実感できる」「手作り感を実感する」「コスパの良い」果ては「自分を見つける」といった、漠然とした、かつ形骸化された概念ではなく、流行に左右されない価値意識のことであり、見田宗介が「価値意識の理論」〔7〕で示す“人間の〈幸福〉とか〈善〉の問題あるいはまた社会の中で諸個人の行為を方向づけるとともに、彼らの人生の「意味」を与える内面的な要因群”と捉える。さらに本稿ではその「価値意識」を統一的な分析の枠組みの中で評価することで構造的にとらえようとするものである。具体例として、明治時代の日光、そして、それに関する外国人による出版物を材料として使用する。

3. 研究の目的と方法

本研究では「明治時代の外国人は日光をどのように見ていたか、どのような部分に感動していたか」を外国人による出版物を通じた言葉の分析により、価値意識構造を明らかにするものである。

日光に着目し、また、明治時代の外国人による出版物に着目する理由には以下の4つがある。

- ① 世界遺産となるなど、栃木県内における観光資源として日光が最も知名度が高い。
- ② 多様な情報によりバイアスのかかかっていない状態の日光を捉えた価値意識を把握する必要がある、開国後の間もない外国人の記述が適切である。
- ③ 明治の日光は観光地、避暑地、トラウトフィッシングの場として在留外国人に認知され始めていた。
- ④ 当時の日光は、建築物、自然環境、その他の面で、現代と大きく変わっていない。

前述したとおり、現代も含め、江戸時代以降、日本の観光地について西欧人が記録として書き残したものは多数存在するが、日本全体の中の一部として日光に非常にわずかな紙幅を割いているものばかりで、質・量ともにしっかりと書きとどめているものは驚くほど少ない。代表的なもので、多くのものを網羅しているとされる奈良県立図書情報館の「西洋人から見た幕末・明治のニッポン」展示資料リスト（2009年）に示されている一般書・参考図書の166タイトルの中にも日光について十分な紙幅を割いているものは極めて少ないのが実態である。

本稿での対象文献として、当時の外国人が日光について書き残した出版物（紀行文、案内書、日記、エッセイ）の中で、日光に関する記述が質・量ともに保証されるものは以下のとおりである。

- ① Ernest M. Satow（1843–1929） 日光初訪問 1872
アーネスト・サトウ（イギリス人外交官）
“A Handbook for Travelers in Central and Northern Japanⁱⁱ” [8]
「明治日本旅行案内」
- ② Isabella L. Bird（1831–1904） 日光初訪問 1878
イザベラ・バード（イギリス人女性旅行家）
“Unbeaten Tracks in Japanⁱⁱⁱ” [9]
「イザベラ・バードの日本奥地紀行」
- ③ Pierre Loti（1850–1923） 日光初訪問 1885
ピエール・ロチ（フランス人海軍士官・作家）
“Japonerie d’automne^{iv}”
「秋の日本」 [10]
- ④ Mary Crawford Fraser（1851–1922） 日光初訪問 1889
メアリー・クロフォード・フレイザー（イギリス人外交官夫人）
“Diplomat’s Wife in Japan : Sketches at the turn of the century^v” [11]
「英国公使夫人が見た明治日本」
- ⑤ Eleanora Mary d’Anethan（1858–1935） 日光初訪問 1894

エリノーラ・メアリー・ダヌタン (ベルギー公使夫人)

“Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan” [12]

「ベルギー公使夫人の明治日記」

これらの出版物から外国人である著者の価値意識構造を浮かび上がらせる手段として、出版物の中で使われている形容詞に注目する。“On the Core Function of English Sensory Adjectives” (OUPEL, 2017-12)の中でIwahashi [2] が述べている通り、価値意識に該当する形容詞は以下の6カテゴリーに分類される。

- ・ 感じ (feelings)
- ・ 善悪 (morality judgement)
- ・ 量の多寡 (amount)
- ・ 困難度 (difficulty)
- ・ 程度の度合い (degree of intensity)
- ・ 評価 (evaluation)

また、仁田義雄 [13] は形容詞の3つの分類 (属性、評価・判断、感情・感覚) のうち、約26%が評価・判断の形容詞として出現するとしている。そして、宇佐美洋 [14] が述べている通り、評価という判断行為は、評価者の価値観に支配されている。つまり、書き手の評価判断が形容詞に表現され、その評価判断は彼らの価値観をもとになされている。従って、文献に登場する形容詞の中から「評価」に関連する形容詞を抽出し分析することにより、それを支配する書き手の価値観が浮かび上がる。分析の仕方としては、抽出した形容詞を分類し (Chart 1) (図1, 3, 5, 7, 9)、その中で「評価」に該当する形容詞群をKJ法を用いて、グルーピングと関係性を分析し、その構造を浮かび上がらせる (Chart 2) (図2, 4, 6, 8, 10, 11)。対象文献における該当ページおよびページ数、そして作成した形容詞カード枚数 (形容詞を抽出してカードに転載したものを形容詞カードと呼ぶ。一枚のカードに複数の形容詞が入っている場合があり、実際の形容詞数はカード枚数よりも多い) は、以下のとおりである (表2)。なお、標記の仕方として、どのような文脈で使われているかを明示するため、被修飾語も記載した。

表2 文献ページ・形容詞カード

文献	対象ページ	ページ数	形容詞 カード枚数
A handbook for Travelers in Central & Northern Japan	P250-252, P440-442, P445-460	20	174
Unbeaten Tracks in Japan	P94-129	35	342
Japonerie d'automne	P104-178	74	154
Diplomat's Wife in Japan	P229-236	7	101
Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan	P86-92, P123, P144-156	19	73

なお、Chart 1 では、横軸として Objective (客観性)⇔Subjective (主観性)、縦軸として Reader-oriented (事実性)⇔Writer-oriented (意見性)として形容詞群を分類した。また、Chart 1 の中でグルーピングした形容詞群にアルファベット名称を付した。以下の略語となっている (表 3)。

表 3 Chart 1 略語

WO	Writer-oriented, Objective	高意見性	高客観性
NO	Neutral, Objective	中意見性	高客観性
RO	Reader-oriented, Objective	高事実性	高客観性
WM	Writer-oriented, Moderate	高意見性	中主観性
NM	Neutral, Moderate	中意見性	中主観性
RM	Reader-oriented, Moderate	高事実性	中主観性
WS	Writer-oriented, Subjective	高意見性	高主観性
NS	Neutral, Subjective	中意見性	高主観性
RS	Reader-oriented, Subjective	高事実性	高主観性

II 分析の結果

1. アーネスト・サトウの価値意識構造

まず、アーネスト・サトウの「明治日本旅行案内」の日光の部分の旅程は以下のとおりである。

Route 21 佐野→出流→栗野→鉢石

Route 52 宇都宮→徳次郎→大沢→今市→日光→神橋→輪王寺→東照宮→二荒山神社

→慈眼堂→大猷院→憾満が淵→裏見が滝→いろは坂→馬返し→華厳の滝

→中善寺→男体山→大真名子→女峰山→湯本→足尾

Objective(客観性)←	→Subjective(主観性)		
<p>WO (Writer-oriented, Objective)</p> <p>practicable, considerable village, comparatively cool, a beautiful shed, a massive stone, have miraculous effects, not remarkable either, a fairly broad path, a labourious climb, the principal points, a considerable landslip, an arduous ascent, earlier, dry, heavy rain, overhanging precipice, far away, a wooded elevation, a silver thread, deep crimson foliage, produces such splendid effects, a strange medley of ex-votos, plentiful, less extensive, with much greater ease, necessary, nearer, easier, a small difficulty, not too high for Europeans</p>	<p>WM (Writer-oriented, Moderate)</p> <p>extremely curious limestone caverns, remarkable, curious painted carvings, a left-handed sculptor, the celebrated artist, a sumptuous stable, a sacred white pony, the beautifully decorated building, the fabulous beast, curious network of beams, beautifully decorated with, a coffered ceiling, diversely designed, a very clever carving, a beautiful view of foliage, trees of various tints, a narrow piece, their mean appearance, a curious sight, young barley is springing, a fine view, the most curious of all, much more beautiful, a very interesting object</p>	<p>WS (Writer-oriented, Subjective)</p> <p>worth while sitting here to enjoy the view, extremely good, particularly worth visiting, worth the trouble, particularly worthy of notice, worth while ascending, worth visiting for its prettily arranged garden, deliciously cold, celebrated as being the purest, a sufficient reward, repay a visit, well repays the exertion, display the loveliest tints</p>	<p>↑ Writer-oriented (意見性)</p>
<p>NO (Neutral, Objective)</p> <p>a prominent adherent, merit attention, by being too perfect, the wonderful law, pregnant women, a safe delivery, fragrant chanot, decisive battle, a fancied likeness, prettier name, lying prostrate, a huge animal couchant, rare fern, the principal fall, two smaller ones, a fair pedestrian, a good three hour's walk, the climate being too severe, the stony bed, though small and quiet at some seasons, a dangerous torrent, intensely wild, a savage ravine, primitive bridges of faggots, the long trailing moss, the commonest trees, holy ground, a slender stream, smooth black rocks, a desolate forest, red swamp, violent hot-spring, is far too hot to bathe in, a rustic bridge, a gigantic pair, great muscular development, a holy building, the special patron, dark nights, a courageous person, still visible, the sacred tree, precipitous bed of torrent, almost perpendicular, the interlaced roots, the grassy slopes, degenerate, some happier region, unknown, however often, useless, pure fictions, no historical ground, the same muscular proportions, life-like painted figure, a long beard and sturdy legs, magnificent, unbroken, a magnificent building, gigantic figures, gilt monsters, a gigantic tree, a fine revolving octagonal cupboard, gilt pillars, a fine bronze torii, a minute regular pattern, a steep hill, a narrow ridge, a small hut, a pretty view</p>	<p>NM (Neutral, Moderate)</p> <p>advisable, the most comfortable for travellers, upon moderate terms, afford sufficient nourishment, proved by actual measurement</p>	<p>NS (Neutral, Subjective)</p> <p>picturesque hamlet, the finest of all, a fine view, a picturesque contrast, graceful form, harmonious colours, fabulous beasts, handsome buildings, beautiful workmanship, a fine and most solid piece of workmanship, a picturesque view, to much better advantage, a most romantic and picturesque, well stocked, afford good sport, the best view, the splendored avenue of pine, anything but agreeable</p>	
<p>RO (Reader-oriented, Objective)</p> <p>precipitous, dormant volcano, visible, lofty stone wall, sacred dances, fragrant ceas, deified spirits, geometrical coloured decorations, gaping crimson throats, silken one, monumental tablet, an immense bronze stork, the rugged and precipitous rock, a deep pool, the boiling eddies, a precipitous rock, it seems impossible, the large mountain, on the extreme left, a small stream, a steep precipice, high above them, a grassy valley, a grassy hill, precipitous cliff, impassable for horses, rugged gorge, latter, wet and slippery, thick boots, the singular deserted village, the lower path, close to, closed, lofty bare cone, slumbering volcano, marshy basin, blue lake, a little tarn, the wooded hills, precipitous rock, rusty sword-blaze, comparatively low hills, its greatest length, the opposite side, a tiny island, the main path, a full view, through deep, dark hollows, the only bare peak, circuitous route, a point not far, perpendicular height, a narrow path, deciduous trees, all free to the public, huge crater, a slight depression, the highest part, a very steep ascent, far away down to the right, a dark green pool, the cold spring, a thick wood of oak, the real ascent, a large stone, precipitous rocks, bare stones, a path straight on</p>	<p>RM (Reader-oriented, Moderate)</p> <p>clean and airy, numerous respectable native inns, unmistakable, invisible, magnificent range, a dangerous undertaking, requires great care, loose stones</p>	<p>RS (Reader-oriented, Subjective)</p> <p>easily accomplished, convenient, best to travel by land preferably by jinrikisha, pays special attention, a comfortable house, practicable for kunuma, a pleasant afternoon's walk, another pleasant walk, their favourite spots, enjoys the best view, will be found preferable, it is advisable, at first somewhat disappointing, will be well repaid, recommend Chiuzenji as being preferable, very comfortable accommodation, very pleasant rooms</p>	<p>↓ Reader-oriented (事実性)</p>

図 1 Satow Chart 1

(Ernest Satow “A Handbook for Travelers in Central and Northern Japan” より 著者作成)



図2 Satow Chart 2

(Ernest Satow “A Handbook for Travelers in Central and Northern Japan” より著者作成)

次に、抽出した形容詞群は 76% (132/174) が対象を事實的、かつ客觀的に説明するものであった (Satow Chart 1 (図1) の左側 6 グループ、WO,NO,RO,WM,NM,RM)。例えば、large, small, dormant, wooded, straight などである。残りの 24% (42/174) が「評価」に関する形容詞群 (WS,NS,RS の 3 グループ) で以下のように分類された。

- ① 現實的、かつ實際的な道路、宿の状態などの評価である。具体的には convenient, preferable, comfortable, pleasant, advisable, favourite, practicable, special などである。
- ② 實際の対象観光資源の描写で書き手の評価が表現されている。例えば、picturesque, beautiful, splendid, handsome, graceful, harmonious, fabulous, romantic, agreeable などである。
- ③ 書き手の独自の判断を読者に披露する場で、書き手の取材時の感動を生き生きと伝えている。worth, worth while, worthy of, repaid, lovely, good, celebrated, delicious, pretty などである。これらの 3 グループの関連性を図式化したものが Satow Chart 2 (図2) である。

サトウが書いた文章の大タイトルが“A Guidebook to Nikko”であるためか、読者に「訪れる価値」があるか否かを論ずる表現が多い。したがって、“Sufficient Reward” (充溢した応報) が中心の価値意識構造になっている。それをサポートする 3 つの要素が「絵画的なコントラスト」「心地よい散歩」「見事な眺め」である。特筆すべきは、建造物および、そこへたどり着くまでの道程、そして、それを取り巻く周辺の環境、の描写が他の 4 人に比べ綿密である。イギリスの中産階級出身のサトウにとって、「心地よい散歩」が楽しめる自然、特に、秋の紅葉 (The Loveliest Tints) は重要であ

ったと考えられる。コントラストでサトウが特に取り上げているのが、杉木立の深緑と神橋の紅の対比である。「見事な眺め」に関しては、様々な場面で登場し、それを得られる場所で過ごす時間が、すなわち、そこへ到着するまでに経てきた労苦への報酬であった。

2. イザベラ・バードの価値意識構造

イザベラ・バードの「日本奥地紀行」の日光に関する記述の中の紀行ルートは以下のとおりである。
栃木市→例幣使街道→今市→神橋→陽明門→大猷院→男体山→中禅寺湖→湯元

Bird Chart 1 (図3) の通り、抽出した形容詞群の 72%(247/342)が事実性・客観性を帯びたもの(左側 WO,NO,RO,WM,NM,RM の6グループ)で、28%(95/342)が価値観を含み意見性・主観性を帯びている(右側 WS,NS,RS の3グループ)。

バードの「日本奥地紀行」を読んで、宮本常一は「外国人(バード)が自分の国と比べながら日本(日光)を見ていて、先入観がない。」「一人の外国人が見たその目は、日本人が見た目より、われわれに気づかせてくれることが多い。」と述べている。

バードの日光に関する記述の中で、目立ったのが金谷家の人々への賞賛である。refined, lovely, handsome, sweet, pleasing, など、手放しで褒めている。金谷家の人々が経験上、外国人の扱いに慣れており、外国人客が望む宿屋としての在り方を常に研究していた証左である。Bird Chart 2 (図4) に示す通り、特筆すべきは、バードが建造物と自然環境、壮麗さと簡素さなどのコントラストに感銘を受けた部分である。具体的には、大猷院の中の仏教と神道のコントラストにも驚いている。「洗練された」もの、「全く異なった個性」、そして、「死者を悼む」場までもが、それぞれ、際立つコントラストを醸成・演出している。

3. ピエール・ロチの価値意識構造

Pierre Loti の文献「秋の日本」のみ、原文または英文での入手が困難であるため、今回、日本語訳を採用した。その翻訳日本語の中で、形容詞および比喩表現を含む形容詞句を対象とした。

ロチが歩いたルートは以下のとおりである。

(列車で) 宇都宮→(人力車で) 杉並木→(日没) 宿屋一泊→神橋→輪王寺→三仏堂→五重塔→東照宮→大猷院→憾満が淵

Loti Chart 1 (図5) の抽出形容詞は左側の6グループ(WO,NO,RO,WM,NM,RM)が全体の79%(122/154)で事実性・客観性の形容詞群、右側の3グループ(WS,NS,RS)が全体の21%(32/154)で意見性・主観性の形容詞群である。

Objective(客観性)←	→Subjective(主観性)		↑ Writer-oriented (意見性)
<p>WO (Writer-oriented, Objective)</p> <p>stupendous cleft, deep eaves, graceful balconies, picturesque village, trim, neat houses, delicate almond flavour, fragrant twilight, flame-coloured azaleas, several beautiful flowering, singularly mournful-looking, deserted village, long, grey barrack-like houses, ever-increasing grandeur, broad chasm, impetuous Daiyagawa, solemn shade, elaborate art, graceful stem, rigid needles, vigorous action, remarkable muscular development, hideous(2), bright greens, gorgeous niches, human form, splendid paraphernalia, great granite cistern, holy water(3), less remarkable, simple but stately enclosure(2), gorgeous shrines, colossal bells of bronze, richly gilded and painted, boldly carved, marvellous workmanship, magnificent granite cistern, magnificent bronze lantern, massive stone pedestals, less important Shoguns, byemitsu, able grandson, ordinary gohei, high broken hills, richly wooded and slashed with, silent mountain look, quaint baskets, glorious avenue, tremulous sunbeams and shadows, sacred shrines, more varied and beautiful, innumerable villages, too small to carry real ones, perfect nest to fleas, fusty green mosquito net, special manufacture</p>	<p>WM (Writer-oriented, Moderate)</p> <p>specially beautiful, sure to be seats and possibilities for eating, abrupt but very lofty, magnificent sight, energetic invalids, light planned, sweet scent, nearly white, polished pine, finely, incised leaves, nothing solemn or devout, more and more magnificent, lovely garden, rude zigzag track, quite unique, the most wonderful work, most beautiful of the many views, uppermost gate, singular contrast, horrible or grotesque creations, Japanese religious fancy, generally grossly exaggerated, a grim irony, rather contemptuous, principal object, large temple, aggressive vegetation of 260 years, unadorned but Cyclopean, bewildered by magnificence, increasing astonishment, its magnificence and beauty, beautiful as it is, its magnificent Buddhist paraphernalia, intoned a sacred classic 10,000 times, gorgeousness of azaleas and magnolias, luxuriousness of vegetation, always grateful, helpless and solitary, warm colouring, good night's rest, beautified rest and indifference to mundane affairs, grand and beautiful like itself, rare glimpses of high mountains, Japan was beautiful, only an ugly dream, elaborate politeness, in a high key, laughable, diabolical, constant application of eyes, not very sober or decorous travellers, from bad to worse, brilliant day, too poor to place a bronze lantern</p>	<p>WS (Writer-oriented, Subjective)</p> <p>rejoiced, proper, exquisitely lovely, glad, picturesque, capable, very high idea in art, more intent, staliest, mournful, severely magnificent, undreamed-of beauty, the most beautiful scenes, solemn, profound, slow and sure, historical, religious, a distinct individuality, a very sweet, refined-looking woman, delighted, grand and lonely Nikko</p>	
<p>NO (Neutral, Objective)</p> <p>deep caudron, large body of water, finely corrugated black rock, shred silk, great spring, blue towel(2), slant rays, dilapidated log bridge, tiny wavelets, lavish undergrowth of azalea, rusty sword-blaze, remorseful men, unrippled water, deep green, steep wooded hills, lovely lake, lying asleep, magnificent view, snow-slashed mountains, great depth, broad bed, rampageous torrent, enormous rain hats, gentle creatures, richly arabesqued walls, much contorted devil, gorgeous shrine, grand entrance, gigantic Ni-o, solid block of water, necessary to leave, panelled and richly frescoed, sacred dance, richly painted beams, gilded gragons, crimson throat, great red-throated heads, sumptuous stable, bright red timber wall, high rank, grey village, cold and pure, dark greens and soft greys, colossal flights, truly dull, quaint street, prodigious rainfall, profuse, damp and hot, grand monument, colossal avenues, great deal of hemp, precarious stretcher</p>	<p>NM (Neutral, Moderate)</p> <p>very little amusement, wrap their beautiful dwellings up in coarse matting, green with every species of damp greenery, with great cedars and chestnuts, tolerable(2), most severe, intolerable, many unpleasing stories, mythical to me, experimental journey, dewy bloom, creamy white, unpleasantly conspicuous, somewhat less magnificent, are even bewildering, perpetual twilight, highly polished black lacquer, dim splendours, plain gold gohei, highly decorated building, handsome flight of steps, nobles of inferior rank, splendid burial, two greatest Shoguns, loveliness of the gardens, sombre grandeur, bright beauty, scarcely explored, dark green lakes, endless serenity, deep abyss, solemn groves, most magnificent of the two avenues, fresh green and exquisite leafage of thehemo, wise-looking babies, richer farmers(2), comfortable, disreputable character, sad fact, noisy and rough, handsome gateways, become aware of, ill-disposed pack-horses, not oppressive, rapid trot</p>	<p>NS (Neutral, Subjective)</p> <p>foreign gentleman, lovely rooms, interesting novelty, exquisite yadaya, beautiful within and without, more fit for fairies, gald, footfall sounds, countless corollas, perfect colouring, passionate life, gorgeous tracery, marvellous boldness, stately setting, not clear, striking contrast, lonely Shinto, glorious workmanship, enriched with magnificent carvings, gracefully designed arabesques, spirited cravings, glorious resting-place, celebrated in poetry and art, detailed description, slightest possible sketch, strange stillness, extremely interesting, good taste, beautiful home, truly refreshing, musical with the clash of waters, bright, pleasant-looking man (2), unmolested by anybody, Swiss picturesque, surpassingly sweet tones, prettier and prettier, extremely beautiful, the largest and handsomest houses, ignominious, singular silence, handsome, well-kept garden, careful tillage and copious manuring, pleasing, precious, sad, ill, kind, helpful</p>	
<p>RO (Reader-oriented, Objective)</p> <p>woven, tight-fitting, elastic, white(2), open wooden pipe, high(4), cold, subpurous(2), fetid, broad, short, various, strong, deep, large(5), small(2), sharp(2), swampish, gigantic, topid, rose-crimson, dense, shaven, red, black(2), sacred, original, rugged, steep, long, simple, monumental, strangely mingled with, golden(3), diaper work, mythical, colossal, metallic, many, massive(2), solid, heavy, fine(2), lofty, accessible, ecclesiastical, fabulous, dead, circular, grand(4), stone-faced, rocky, miniature, bright, dull red, green, clear, pyramidal, deciduous trees, sulphur yellow, slight, domestic, thick, familiar, close, flat-bottomed boat</p>	<p>RM (Reader-oriented, Moderate)</p> <p>gaming is illegal, public resort, open bath-house, nude people, firm and feathery, riots in damp, exquisite mosses, grandly sociable frolic, eight hours of continuous travelling, weeks of earnest work, massive, heavy carved timbers, slightly concave, quite convex, massive tubes, equally beautiful, wrinkled sky blue paper, dark polished wood, one large rook being too large, fine and white, highly polished, secular bridge, plain polished wood, more grotesque articles, abrupt in their forms, wooded to their summits, noisy with the dash of thousand streams, quiet yadaya, dull place, native indigo, quite likely, much frequented passage, mean-looking dog, general practice, national costume, as bare as</p>	<p>RS (Reader-oriented, Subjective)</p> <p>famous, resorted, obstinate, good, well guided, lovely, deep green, high, heavily timbered, imported Buddha, religious art, the Oriental calm, contorted figures, gaudy, the commonest roadside images, eternal repose, boldly carved, crystal eyes, half-jolly, half-demoniacal, the ablest, the greatest, green with mosses, profuse, mythological allusion, complicated, old, fine Kaga porcelain, anxious to meet their views, charming rooms, intelligent, well educated, half-witted, venerable old lady, the sweetest and most graceful Japanese woman, fine and white, the only decorations, pure white vase, polished posts, valuable cabinet, blossoming branch, perfect piece of art, exquisite room, highly polished, beautiful view, simple but irregular, practicable, popular resort, popular pilgrimage, painfully clean, exquisitely clean, neat, delicate, light, steep-roofed, deep-eaved, fine and white, great, open, matted space, precarious shoji, solid and handsome appearance, clean, open spaces, honest independent way, kindly, good-natured creature, reasonable limits</p>	↓ Reader-oriented (事実性)

図3 Bird Chart 1

(Isabella L. Bird "Unbeaten Tracks in Japan" より 著者作成)

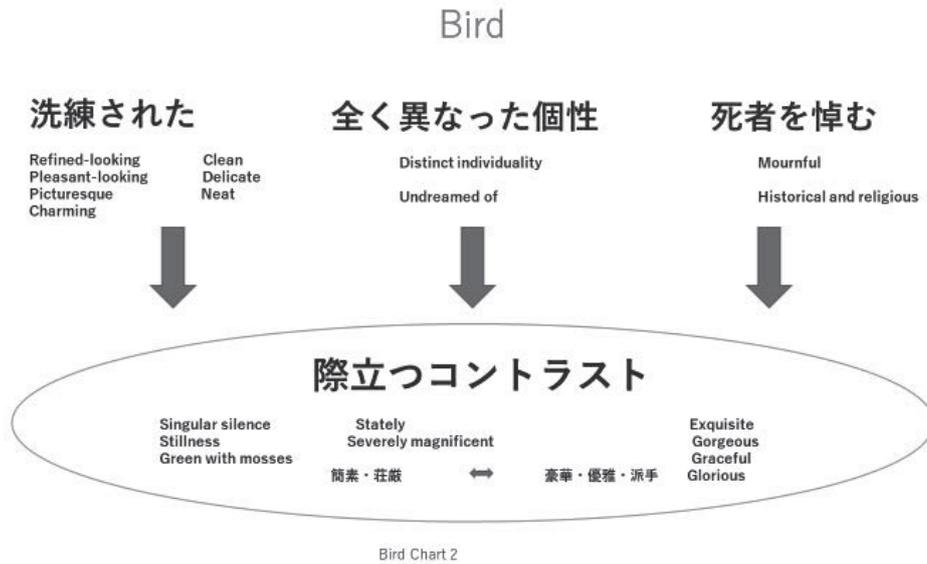


図4 Bird Chart 2

(Isabella L. Bird “Unbeaten Tracks in Japan” より著者作成)

ロチの音と経過した時間に対する見方は他の4人と異なる価値意識である。神社や寺での読経や朗誦、そして川や滝の水音に大きく反応し、苔むす環境と対比させて、社寺建造物の保存状態・修復状態の良さ（「その金泥一つといえども色褪せるにまかせてあるようなものはない」）の中に、日本的な特徴を見出し、その Timelessness として評価している。

また、ロチが繰り返し表現しているのが、権力者の永眠の場＝死者の町として日光を位置づけ（メッカ、サンマルタン等への投影）、自国文化との比較の中で、ギリシャ、ラテン、アラビアのいずれの血も引いていない芸術の懸隔性である。その中に「圧倒的な美しさ」と「秩序のたしなみ」を発見し感動している。5人の中で、唯一、フランス人である故か、ロチにとって日光は、宗教性、芸術性、そして季節がそれぞれ「日本人のたしなみ」の如く秩序づけられている、という価値意識構造になっている（図6）。

Objective(客観性)←	→Subjective(主観性)		↑ Writer-oriented (意見性)
<p>WO (Writer-oriented, Objective)</p> <p>不可思議な神秘家、世にも稀な芸術家、崇高な厳肅性、珍しい感じ、終わりのない教会の監獄、影の通過機、原始的な寺院の御神火、真っ赤なおきび、お別れのイルミネーション、故国フランスにいるような寂しい秋の夜、深いメランコリー、煙々として遊歩、暗い緑色のマント、聖年な僧侶に軽々とした外観、神にさげられた社、巨大な一枚屋根、さびびと飾った英紋(ローザ)、簡潔な邸家、高層な傑作のもの、夢のような外観、紙で作り理解不能な壮麗な場所、物寂しい庭園、社屋なもの、豊饒-優美-入念な装飾、神秘的な場所、空の厨子、独特の優美さ</p>	<p>WM (Writer-oriented, Moderate)</p> <p>真実とは思えない美しい事物の突然の啓示、金の襷壁の間に幽閉、調和と薄明と沈黙、絶対的な静けさ、虚無の中庭、長すぎる恍惚状態</p>	<p>WS (Writer-oriented, Subjective)</p> <p>世界で一番美しい場所、死者の町、精霊の暮ぶ神秘的な薄闇、社屋と静徳がすべて、秩序のたしなみ、複雑な意匠、過量を忍びさせない財宝、さまざまな形象、ちゃんとした調和、虚無と静穆、途方もない豪華、比較的簡潔、社屋の後の陰気、死者の都、重い屋根、死者の金色の都</p>	
<p>NO (Neutral, Objective)</p> <p>仙境的な、重々しい打音、ゆるやかな響き、平凡な出発、巨利の町、世界に類例のない街道、崇厳な大樹、みどりの黄音、とりとめもない不安、魔法めいたもの、心の安息所、四つん這いを始める、芝居の幕のように、巨大な屹立性、湿々した冷気、凍り付くような氷のせせらぎ、オーケストラの大合奏、偶像たちの存在、絵と彫刻の博物館、不屈不撓の彫刻家たち、気の落ちまく、素朴味のある、非常に精妙な、疲勞(見学する、叙述を紡ぐ)</p>	<p>NM (Neutral, Moderate)</p> <p>カリフォルニアの大ウェリントンニアに似通ったクリプトメリア、心が重いエジプト寺院、日本的な情景、不思議な国の心臓、日本の非凡さ(保存状態)、西歌のがさつで私的な人間、半シヤラテンアメリカからは何の血も引いてはいない、近くの遊星、忠実-素朴-巧妙(日本の芸術の特色)、私の叙述は財宝の目録、日本本島の中央</p>	<p>NS (Neutral, Subjective)</p> <p>同じ虚無、同じ至上の折り、神秘的驚異、安息と社屋、豪華な横の曲線、優美にこっきりと、私たちの観念の彼岸、完全な調和、うっとりする不思議、衣擦れの音、黒も音、つつましい、鄭重な、礼儀正しい群衆、仰々的な裏面、威嚇に満ちた社屋さ、圧倒的な美しさ、懐懐の情、愛てこ-滑稽-貧弱</p>	
<p>RO (Reader-oriented, Objective)</p> <p>社屋さ、狭苦しい客車、品のいい婦人、秋の我がフランスに似る、奇妙な雑色の看板、果てなく長いお評儀、大きき広い街、比類なき豪華さ、途方もない巨さ、堂々たる外観、密閉された穹窿、円柱のような幹、ひんやりとした運気、暗い東てしない並木道、驚くべき日本の痛、素晴らしい方法で、斜陽が下から忍び込む、黒と金の編の配列、平べったい機頭、影絵、一村落の過ぎない、極端に清浄無垢、最上等の部屋、赤目っぽい話、白樺の匂い、紙の壁、幅厚な床板、分解された部屋、吹きさらし風のなか、音もなく、徳芝の時間と短縮する流儀、手取り早い方法、線の色、手前がからかない朝食、入念な細工、秩序なく、血紅色の総来途、開け広げの神社、未開のままの眼界、焦れついで半開きと熱揚さ、みどりの美しいひまわり、みどりのひろろどの平権子、塔という名称はふさわしくない、生き生きとした家の浮彫、音の星章、オベリスクのような、風変わりな神秘的な意匠、三百年をけみして保存、色褪せるにお任せない、根気のいい音、ヘラクレスのような筋肉隆々、三日月形の返り逆った軒線</p>	<p>RM (Reader-oriented, Moderate)</p> <p>連続する騒音、浄化された空気、永遠の音楽、亡き将軍たちを慰める、紛然と埋没された、未曾有の社屋さ、たくい補な帯地区、どこかの都会、一種の宗教家、もの悲しい調子、新鮮な社屋さ、幼稚で未熟なゴチック教会彫刻、日本芸術の精髄、ヨーロッパのコレクションの中の断片</p>	<p>RS (Reader-oriented, Subjective)</p> <p>色褪せない総来途、わが西歌の芸術とは懸隔あり、ひどく遠った起源、地上における唯一無二、日本のメック、静かで清らかなサンマルタン、浮薄な日本、超自然物にささげられている片隅、遠く坂の果敢らしい思い付きの片隅、人跡未踏の社、恒久不変の装飾、世にも稀な豪華、地世紀の静謐、聖示録の野蠻たち、黙示録の都市、久遠の聖業、未眠、摩滅、わがケルト風の記念巨石</p>	<p>↓ Reader-oriented (事実性)</p>

図5 Loti Chart 1

(Pierre Loti 「秋の日本」より著者作成)

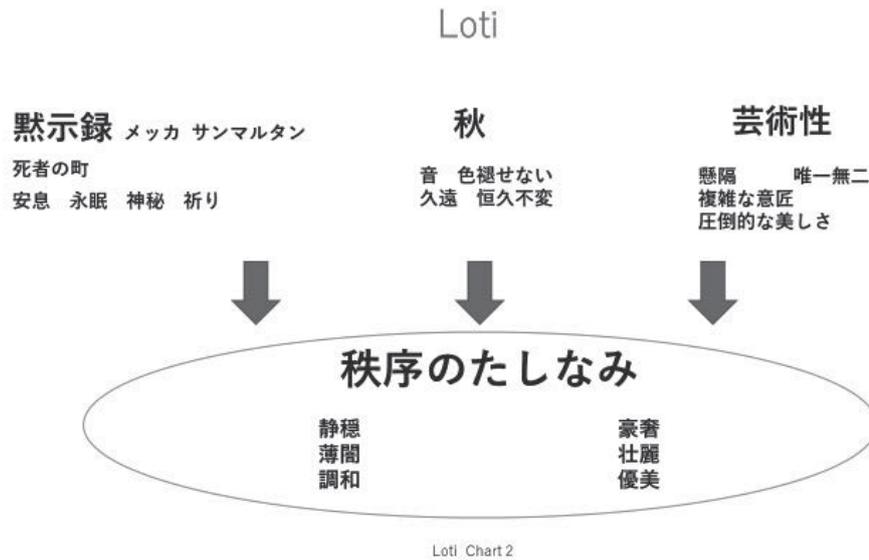


図6 Loti Chart 2

(Pierre Loti 「秋の日本」により作成)

4. メアリー・クロフォード・フレイザーの価値意識構造

Mary Crawford Fraser は英国公使夫人であるが、その対象物の描写力、そして表現力は文筆家としても超一流であることは論を待たない。彼女が日光で辿ったルートは以下のとおりである。

(汽車で) 宇都宮→杉並木→鉢石→神橋→東照宮→大猷院→憾満が淵→中禅寺湖

Fraser Chart 1 (図7) の形容詞群の割合は以下のとおりである。

事実性・客観性の形容詞群: 69%(70/101) (チャート左側の6グループ、WO,NO,RO,WM,NM,RM)

意見性・主観性の形容詞群: 31%(31/101) (チャート右側の3グループ、WS,NS,RS)

フレイザーの視点(興味)は、休息の場としての日光であった。その観光地としての魅力はそれまでに多くの人に語られ尽くされていること、そして、日本の他の地での、公人としての滞在・活動から離れて、静かに時を過ごすことができる場所を求めていたこと、がその大きな理由である。彼女が滞在した日光は、夏から秋にかけてであった。日本が「トンボの国(秋津洲)」と称されたことを知るフレイザーは、日本の地味な自然環境の中で、多大な「根気」を必要とする建築・工芸職人たちの入念さと、避暑地としての日光の夏と紅葉の秋が全体として彼女にとっての「静穏」な場所を醸成している。やはり、中禅寺湖畔の夏と秋が最もお気に入りの場所であったと考えられる(図8)。

Objective(客観性)←	→Subjective(主観性)		↑ Writer-oriented (意見性)
<p>WO (Writer-oriented, Objective)</p> <p>cool shadow and grey distance, whispering pine branch, grand cryptomeria avenue, splendid trees, river coming down very full and angry between the deep-green hills, sides of the glen are steepest, perfect bridge, scarlet arch across the white water, inevitable wise man, lovely bridge, no mortal footstep, eraly sun-rays, good news, deep shadowy courts, wonderful library, finely carved panels of the splendd halls, unlimited treasure, redundant imagination, lavished on these temple rooms, splendd tomb, vast hall, lonely state</p>	<p>WM (Writer-oriented, Moderate)</p> <p>waited so long, most beahtiful, most solemn, supreme expression of beauty, my strained Western senses, golden-tinted ruins/jewelled hills/gorgeous colour feast of our blazing South Italian home, great past hangs over everywhere, grey stones laid in leisurely sequence along the rich dark soil, favourite shrine, most amazing elaboration of ornament, lit in the luminous even whiteness of Japan's noonday, thelight is soft, yet entire; the magic mountains seem to cast no shade, each more beautiful than the last, finest piece of illumination, torrent keeps them always wet, sings such a loud rushing song tha one's senses get dazed</p>	<p>WS (Writer-oriented, Subjective)</p> <p>strong effect, thousand-sailed fleets, golden leaves, delicately ruffled, crystal water, sun-searched deeps, stand shyly, silver strand, perfect jewel, untouched peace, drink the light, learn the silences of peace, hear the wordless music of the ripple, speachless beauty all around, here is the City of Rest</p>	
<p>NO (Neutral, Objective)</p> <p>exquisite pagoda, red beauty, cold in Nikko, pure water, holy places, visible terasures, indispensable pages, worthy of the traveller, richly decorated, golden temple, calmly clear to the eye, low and heavy door, small dark treasure-house, other holy spots</p>	<p>NM (Neutral, Moderate)</p> <p>certain reverence to the heart of Nikko, the wood is fresh and strong, solemn/pontifical pines, serried ranks, glorified spirits, central figure, more gladly golden, strange little Buddhas, all exactly alike, gentle faces, moss-shrouded images</p>	<p>NS (Neutral, Subjective)</p> <p>futile picnics, noisy tourists, impressed and silenced by its calm majesty, carried away by the human associations of this great home of great shadows, voluntary defect might appease the jealous gods, profound melancholy, long grey line, a curtain woven of star-shaped leaves, studded with a spray of jewel-tinted leaves, mingling with the iridescent showers, soft mosaic of bronze and orange, the summer has breathed its parting sigh, delicious fleeting smell of autumn woods</p>	
<p>RO (Reader-oriented, Objective)</p> <p>noisy smoky journey, extinct since prehistoric times, frightful storms, black green, golden green, grass-grown path, enormous roots, brown buttresses, highest noon, blue spiral of smoke, rough bamboo holder, famous avenue of cryptomeria, great Daimyo, splended granite torii, white horse, stable is empty, various relics of Iyeyasu, revolving bookcase, small pagoda, single piece of bronze, gilden colour, nameless green mound, Iyeyasu's favourite horse, the river is running high, violent storm</p>	<p>RM (Reader-oriented, Moderate)</p> <p>Kobo Daishi exorcised, icy breaths, tempest-haunted caves, sacred feet/scarlet arch, consecrated mission, holy men, dusky hillside, mild air, sheltered courts, dry ground, old horse, sacred hills</p>	<p>RS (Reader-oriented, Subjective)</p> <p>too holy for unanointed feet, changeless peace, harmonious and subdued, the Islands of the Dragon-Fly, envy of heaven for their perfect work, delicate/patient/perfect paintings, European collection, grey pine-shroudes Nikko, sombre mantle of the pines, all aglow with them, fired from above with noonday sun, maples so late in coming to their glory</p>	↓ Reader-oriented (事実性)

図7 Fraser Chart 1

(Mary Crawford Fraser "Diplomat's Wife in Japan" より著者作成)



図8 Fraser Chart 2

(Mary Crawford Fraser “Diplomat’s Wife in Japan” より著者作成)

5. エリアノーラ・メアリー・ダヌタンの価値意識構造

最終はベルギー公使夫人（イギリス人）の公使夫人としての日本滞在日記である。日記とはいえ、“Fourteen years of Diplomatic Life in Japan”と題された歴とした出版物である。ちなみに彼女は日記のほかにも8篇の小説も発表している。ダヌタンは1893年から1910年までの間に通算14年間日本に滞在し、後半、夏は毎年のように中禅寺湖畔の別荘に滞在した。彼女が初めて日光を訪れた時のルートは以下のとおりである。

伊香保→日光→東照宮→大猷院→憾満が淵→白糸の滝→滝尾神社→中禅寺湖→華嚴の滝

d’Anethan Chart 1（図9）の形容詞群の割合は以下のとおりである。

事実性・客観性の形容詞群：60%（チャート左側の6グループ、WO,NO,RO,WM,NM,RM）

意見性・主観性の形容詞群：40%（チャート右側の3グループ、WS,NS,RS）

d’Anethan は Fraser 同様、日常の公務や喧騒から逃れ、暑い日本の夏から安息の場としての日光での滞在を何より楽しみにしていたのがわかる。その避暑地としての日光には落ち着いた自然があり、ロマンティックで壮麗な建造物があり、そして死者たちの神聖な安息の場もある、といったシンプルな価値意識構造であろう（図10）。

Objective(客観性)←	→Subjective(主観性)		↑ Writer-oriented (意見性)
<p>WO (Writer-oriented, Objective)</p> <p>luxurious hours dreaming of the glory that is gone, a lovely and romantic spot surrounded by huge and ancient cryptomeria trees, lovely morning and so deliciously fresh after the intense heat of Tokyo, a delicious summer morning, adventurous summer, ordinary official life, pleasant stay, lovely weather, most perfect weather, charming walk (2)</p>	<p>WM (Writer-oriented, Moderate)</p> <p>indescribably beautiful, marvels of splendour, shrines of rich carvings and marvellous gold, quite deserted and is speedily falling into decay, tumbled-down and picturesque torii, extraordinary silence and the peace of truly lovely surroundings, calm summer day, the lake looked particularly blue and smiling, ancient black lacquer, marvellous temple, passes words, a feast for the eyes of richness and glory</p>	<p>WS (Writer-oriented, Subjective)</p> <p>lovely and peaceful lake, clear and placid lake, grandest and most romantic avenues, most humble and simple resting-place, fine and striking view, impossible to surpass, dazzling to the eyes, beautiful beyond words, eternal salvation, simply magnificent in its snowy fury, stupendous and awe-inspiring</p>	
<p>NO (Neutral, Objective)</p> <p>numberless steps, modest urn of bronze, glorious day after many wet days, nicely prepared, perfect, still day, curious sight</p>	<p>NM (Neutral, Moderate)</p> <p>what a truly poetical idea, silent and mighty approach of lofty and sombre pines, a sight of fairy beauty, innumerable battered bridges of stone, an enormous cock and the holy phoenix, pleased with our little Japanese house of wood and paper on the borders of the lovely lake, a lovely walk to the weather beaten temple</p>	<p>NS (Neutral, Subjective)</p> <p>romantic and old-world, in the greatest profusion and most beautiful, glory of autumn tints, gorgeous tints in the clear still water, pious way to climb the sacred mountain, picturesque worshippers, curious and weird spectacle, twinkling, moving lights, holy purpose</p>	
<p>RO (Reader-oriented, Objective)</p> <p>wooded vegetation, dark avenues, moss-grown balustrades, as silent as the grave, moss-grown stone, half-hidden by a wealth of vegetation, sacred stone, a perfect day, sacred precincts, ran the whole length of the gallery, of a different pattern, much more roomy than I expected</p>	<p>RM (Reader-oriented, Moderate)</p> <p>ancient and defaced Buddhas, lofty and thickly wooded mountains, immense plaques of pure gold lacquer, the high priest was most ceremonious, some charcoal burners had built a modest shelter</p>	<p>RS (Reader-oriented, Subjective)</p> <p>unique sight, temple built by King Solomon, lovely walk to the Vermicelli Falls, reminded me of Como Lake, vivid mass of crimson, vermilion, carmine, scarlet and bright yellow, intermixed with the dark green and the lighter green of various other trees, masses of brilliant colouring, scantly walk to a beautiful little lake, picturesque objects with the lay white staff that aids them in their labourious ascents, most orderly individuals from their weary pilgrimage</p>	↓ Reader-oriented (事実性)

図9 d'Anethan Chart 1

(Eleanora Mary d'Anethan "Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan" より 著者作成)

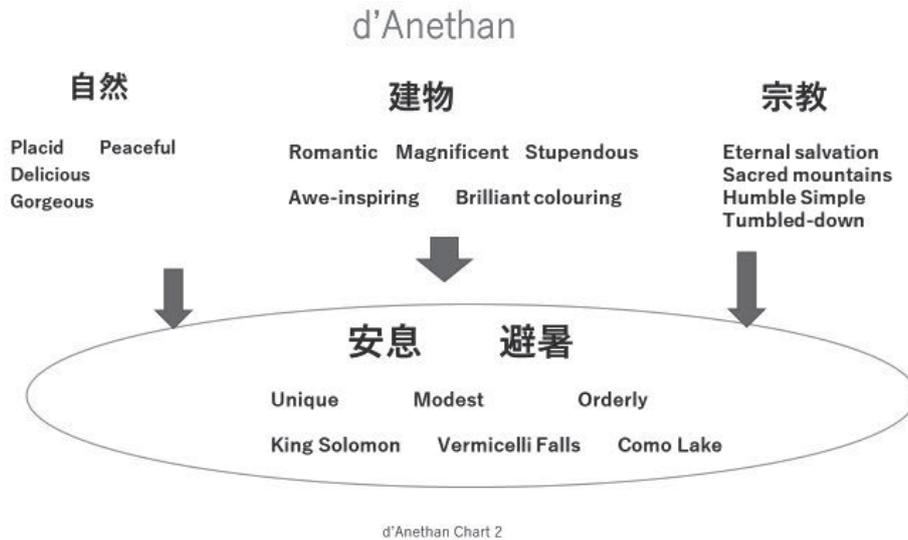


図 10 d'Anethan Chart 2

(Eleanora Mary d'Anethan “Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan” により作成)

III おわりに

最後に、Satow, Bird, Loti, Fraser, d'Anethan それぞれの価値意識構造の分析結果を整理して、5人の文献調査から把握可能な価値意識構造の全体像を示す。図 2, 4, 6, 8, 10 を統合したものが全体 Chart (図 11) である。

分析の結果、以下のようなことが明らかとなった。彼らが示した日光は ほぼ 5 人に共通している「休息の場」としての日光である。それは、Fraser が使った言葉であるが“the City of Rest”である。そして、そこには「静穏」「簡素な威風」「永遠の救い」「最上の精緻」「壮麗な安息の地」「画趣ある寂寥」「鮮やかな色彩の調和」「秩序のたしなみ」といった要素をもつことが明らかとなった。家康と家光、二人の将軍の “Eternal Resting-Place” はそれぞれ日光東照宮と大猷院であるが、少なくとも、Satow, Bird, Loti, Fraser, d'Anethan にとって最上の Resting-Place は日光中禅寺湖畔であったといえるだろう。

そしてもう一つ、「都会での日常の喧噪」対「日光中善寺湖畔の静穏」をはじめとして、「杉並木の威風」対「神橋の鮮やかさ」、「陽明門の壮麗」対「大猷院の簡素」、「二社一寺の豪奢」対「周辺の憾満が淵などの寂寥感」など、至る所で「際立つコントラスト」の描写があり、強調されていることが示された。これらの要素の分析から、「際立つコントラスト」の存在が観光資源としての日光を表す価値意識として極めて重要なものであることが明らかとなった。

Nikko, the City of Rest (Fraser)



図 11 全体 Chart

(図 2, 4, 6, 8, 10 を統合して作成)

「シンプリシティー」が持て囃された時代(流行)、日光東照宮に共感できなかったドイツの建築家、ブルーノ・タウトは日光東照宮を「威圧的」「将軍趣味」「俗悪」と切り捨てた〔5〕。それは一時、日光を著しく貶めた。平川が指摘する通り、「共感」は理解の最良の方法である。そして、本稿で取り上げた 5 人の西欧人たちは日本中はもとより世界中に滞在経験を持つ。彼らの共感力(理解)が彼らが使った形容詞群に端的に表現されていたとすれば、その価値意識構造は松尾芭蕉^{vi}の「不易流行」の「流行」に流されない「不易」のものとして一考に値するに違いない。

本稿は、明治時代の日光に関する 5 つの旅行記から、日本の観光資源に対する西欧人の価値意識構造を解明した。今後は、現代における価値意識構造はどのようになっているのかについて調査研究を進め、外国人の理解とそれによる適切な情報発信のあり方を探っていくことが課題である。

参考文献

- [1] 鎌田道隆 「大阪観の近世的展開」、『奈良史学 6号』pp1-28、奈良大学 1988
- [2] IWHASHI Kazuki “On the Core Function of English Sensory Adjectives”、大阪大学 2017
- [3] 平川祐弘 「和魂洋才の系譜」、平凡社ライブラリー 2005
- [4] 渡辺京二 「逝きし世の面影」、平凡社ライブラリー 2005
- [5] 井上章一 「つくられた桂離宮神話」講談社学術文庫 1997
- [6] 井戸桂子 「日光を訪れた二人のイギリス女性」、駒沢女子大 2012
- [7] 見田宗介 「価値意識の理論：欲望と道德の社会学」弘文堂新社、1967
- [8] Ernest M. Satow “A Handbook for Travelers in Central and Northern Japan” John Murray Publisher, London 1884
- [9] Isabella L. Bird “Unbeaten Tracks in Japan” John Murray Publisher, London 1888
- [10] Pierre Loti 「秋の日本」 “Japonerie d’automne” 角川文庫 1953
- [11] Mary Crawford Fraser “Diplomat’s Wife in Japan : Sketches at the turn of the century” Weatherhill 1982
- [12] Eleanora Mary d’Anethan “Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan” S. Paul & Company 1912
- [13] 仁田義雄 「月刊言語 Vol 27-3」、大修館書店 1998
- [14] 宇佐美洋 「評価価値観はいかに定義され、いかに構造化され得るか」日本言語文化研究会論集 2016

注

-
- i 観光外語ブック等も調査対象になるが、日本語からの翻訳がほとんどであり、外国人による価値意識を表現したものではないと考え対象から外した。また、SNS 上での個人のレポートなども調査対象と考えられるが、個人ブログや Twitter など、多様な SNS ツールがあり、収集に限界があるため、今回の調査対象から外した。SNS を通した価値意識構造の分析は今後の課題である。
- ii アーネスト・サトウが本州の中で最も興味深い場所を選んで書いた旅行案内である。主要な山への登山、神社仏閣の説明、史実および伝説の紹介も含んでいる。
- iii 明治維新の 10 年後、西欧人にとって日本は未だミステリアスな国であったころ、イザベラ・バードは外国人女性として初めて日本の奥地に入り、旅をした。その旅行記である。
- iv ピエール・ロチは 1885 年、35 歳の時、フランス海軍「トリファント号」の艦長として、日本を訪問し、同年 7 月から 12 月まで滞在した。文筆家としても有名である。

- v アメリカ人であるが、英国公使夫人として 1889 年に来日、5 年間滞在した。彼女が毎週手紙に書いた日本のスケッチは、後日、集められ、1899 年、本としてロンドンで出版された。
- vi 1912 年初出版、長く外交団夫人の首席を務めたベルギー公使夫人の 14 年にわたる日本滞在記である。日清・日露の両戦役に勝利し条約再生を実現して日英同盟締結に至る躍進する明治日本の政治・外交・社交界・文化・風俗の貴重な記録である。
- vii 松尾芭蕉の「おくのほそ道」では、日光が最初の目的地であった。不易流行は芭蕉が、この旅で考案した俳諧論である。アーネスト・サトウも訪れ、その後水害で流されてしまった日光の大日堂の跡に芭蕉の句碑 “あらたふと青葉若葉の日の光” が立っている。